

令和6年度 岩手県立美術館協議会

日 時：令和6年9月3日（火）

10:30～12:00

場 所：岩手県立美術館 会議室

一 次 第 一

1 開 会

2 館長挨拶

3 議 事

(1) 説明事項

ア 令和6年度 岩手県立美術館協議会開について

イ 岩手県立美術館の概要について【資料1】

ウ 令和5年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況について【資料2】

エ 観覧者数の推移について【資料3】

オ 令和6年度事業実施状況について【資料4】

(2) 協議事項

・ 美術品収集について【資料5】

(3) その他

4 閉 会

令和6年度岩手県立美術館協議会出席者名簿

令和6年9月3日(火)開催

【委員】(五十音順)

氏名	役職名等	出欠状況
合川 常美	盛岡ターミナルビル株式会社ホテルメトロポリタン盛岡マーケティング部セールスグループマネージャー	出席
泉澤 育	盛岡市立下ノ橋中学校校長	出席
伊藤 真紀子	花巻市教育委員会教育部文化財課課長補佐	出席
内田 留美子	盛岡市立山王小学校校長	出席
大衡 彩織	一関市博物館副館長兼学芸係長	出席
小野寺 真貴子	株式会社川徳 執行役員	出席
梶田 佐知子	特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会事務局長	出席
加村 なつえ	岩手芸術祭美術展現代美術部門理事岩手デザイナー協会会員	出席
菊池 勝彦	岩手県立不來方高等学校校長	出席
齋藤 桃子	石神の丘美術館主任学芸員	出席
志田 芽衣子	株式会社岩手日報社編集局整理部	出席
田中 麻里	岩手県立美術館友の会運営委員	出席
中野 圭	(公社)日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会会長	欠席
柳田 陽一	県立学校美術教員	出席
山口 真樹	一般社団法人岩手県PTA連合会副会長	出席

(出席14名、欠席1名)

生涯学習文化財課 出席者

氏名	職名	備考
小澤 則幸	総括課長	
小川 信子	主幹兼生涯学習担当課長	
猿ヶ澤 茂樹	主査	
小森田 紗也	主事	

岩手県立美術館 出席者

氏名	職名	備考
藁谷 収	館長	
多賀 聰	副館長	
千田 貴浩	総務課長	
吉田 尊子	学芸普及課長	
加藤 俊明	上席専門学芸員	
濱淵 真弓	上席専門学芸員	
岩渕 育弘	主任専門学芸調査員	
住吉 オリエ	主任専門学芸調査員	
本波 敏	主任主査	
杉田 友視	主査	

岩手県立美術館の概要

令和 6 年 4 月 1 日現在

項目	内 容	
施設・開館の概要	<p>・開館(H13年10月6日) 【2001年】</p> <p>・敷地面積 21,157.35 m²(盛岡中央公園内)</p> <p>・建築面積 10,061.66 m²</p> <p>・延床面積 13,000.00 m²</p> <p>・展示室面積 3,187.00 m² (企画展示室 1,223 m²、常設展示室 1,964 m²)、ホール 187 m²、アートスペース 79 m²</p>	<p>・建築構造 鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造 地上 2 階建</p> <p>・総工費 約 9,043 百万円 (建築 6,247 百万円) (電気 988 百万円) (機械 1,808 百万円)</p>
基本理念	<p>岩手県における 21 世紀の芸術文化の拠点施設として (開館時の目標)、「①収集・保存・展示の基本的機能が充実した美術館」「②美術文化創造の核となる美術館」「③地域性と国際性を併せ持つ美術館」を目指す。</p>	
事業概要	<p>1 美術品等の収集・保管、常設展示 岩手県出身及びゆかりの作家の作品を中心に近・現代の優れた作品を収集・保管し、公開する。</p> <p>2 企画展示 幅広い視野のもとに、地域や時代にとらわれない、国内外の様々なテーマによる企画展を開催する。</p> <p>3 教育普及 美術と県民との多様な結びつきを可能とするため、各種の教育普及事業を行う。また、美術館情報システムによる美術情報の発信に努める。</p> <p>4 調査研究 美術館活動の充実を図るために、郷土の美術や国内外の美術に関する調査研究に取り組む。</p>	
館の特徴	<p>1 施設・設備 景観と調和した建物 トップライト構造のグランドギャラリー 環境への配慮(ガスボイラー、太陽光発電等)</p> <p>2 コレクション 日本近代美術を辿る上で欠くことのできない存在である萬鐵五郎、松本竣介、舟越保武の 3 人を中心に、岩手県出身又はゆかりの作家の優れた作品を収集 (関連資料を含めて約 5,300 点)</p>	
運営体制	<p>1 業務委託 ①教育(学芸)業務については、県が公益財団法人岩手県文化振興事業団 (以下「事業団」と標記。) に委託 ②施設管理等業務については、県が事業団を指定管理者に指定のうえ委託(R5~R9 年度: 現在 6 期目) なお、警備、受付、看視、清掃等の業務については、事業団から民間事業者に再委託</p> <p>2 職員体制 館長(常勤) 副館長/派遣(1) <u>総務課</u>(7)・総務課長/法人(1)、主任主査/法人(1)、主査/法人(1)、会計年度雇用職員(4) <u>学芸普及課</u>(11)・学芸普及課長/派遣(1) [学芸担当⑤]・上席学芸専門員/派遣(3)、主任専門学芸員/派遣(1)、会計年度雇用職員(1) ※派遣 1 人欠員 [普及担当⑤]・主任専門学芸調査員/派遣(2)、学芸調査員/派遣(2)、会計年度雇用職員(1)</p> <p>3 岩手県立美術館協議会 (美術館条例第 10 条に規定) 委員定数 15 名(学校教育関係 3、社会教育関係 2、学識経験者 9、公募 1) 年 1 回開催</p>	

事 業 名	事 業 内 容
収集・保存活動	<p>1 本県出身及び本県ゆかりの作家を中心とした、近・現代の優れた美術品の収集を行うとともに、関連資料の収集に努める。</p> <p>2 収集にあたっては、綿密な調査研究に基づき、長期的な収集計画を立て、系統性のあるコレクションとなるよう収集を進める。</p> <p>3 美術品等の収集は、購入、寄贈及び寄託とし、学識経験者による美術品収集評価委員会に諮って行う。</p> <p>4 収集した美術品等は、良好な環境の中で安全に保存するとともに、適切な分類方法により整理・分類を行い、必要に応じて修復等を施す。</p>
展示活動	<p>1 館所蔵の美術品等を常設展示室において紹介する。</p> <p>2 収集の柱である萬鐵五郎、松本竣介、舟越保武の3人の作家については、「萬鐵五郎展示室」「松本竣介・舟越保武展示室」において重点的に展示を行う。</p> <p>3 水彩、水墨等の劣化、褪色しやすい紙作品の保存に配慮するとともに、より多くの美術品を県民に公開するため、年4回程度（紙作品においては8回程度）の定期的な展示替えを行う。</p>
	<p>国内外の様々なテーマによる企画展を開催し、県民に優れた美術鑑賞の機会を提供する。</p> <p>【年間構成の考え方】</p> <p>1 欧米の近・現代美術に関する企画展（年間1~2本程度）</p> <p>2 日本の近・現代美術に関する企画展（年間1~2本程度）</p> <p>3 工芸、写真、デザイン、メディアアートなど国内外の多様な美術を紹介する企画展（年間1本程度）</p> <p>4 県ゆかりの作家及び関連する作家の企画展（年間1本程度）</p>
調査研究活動	<p>1 本県の美術をはじめとして国内外の美術に関する調査研究を行い、その成果を美術品の収集や企画展等に反映させる。</p> <p>2 美術館教育や美術品の保存技術等、美術館固有のテーマについての調査研究にも取り組む。</p>
教育普及活動	<p>1 学芸員による作品解説会や研究者等を招いた各種の美術館講座、美術の専門家と一般の参加者とが創作体験を共有するワークショップ、コンサートなど、県民に多様な美術学習、美術体験の場を提供する。</p> <p>2 ライブライバーにおける図書閲覧、デジタルビジョン・レファレンスにおける映像番組の視聴や高精密画面での所蔵作品の検索等、国内外の様々な美術情報の提供に努める。</p> <p>3 インターネットのホームページを通じて、美術館の情報を国内外に積極的に発信する。</p> <p>4 学校との連携について、一層の推進を図る。</p>

令和5年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況

【令和5年度美術館協議会(令和5年12月14日開催)】

1 説明事項「岩手県立美術館の概要について」(会議資料1)について

主な意見要望等	対応状況
開館して20年が経過されて、それぞれ施設の改修、設備の更新という時期になっていると思うが、予定などお聞かせ願いたい。	<p>(前回回答) 特に大規模な改修は予定されていないが、20年経過するといろいろな設備に支障が出てきている。所管課の生涯学習文化財課と連携を図りながら必要な予算の確保をしていただき、適切に対応している状況である。</p> <p>いずれにしても、将来的には大規模な改修等が必要になってくると思われるが、そこは時期を見ながらお客様の安全や作品の保護など、適切に管理運営できるよう対応していきたいと思っている。</p> <p>(追加回答・総務) 今年度は空調設備の更新を予定しており、次年度以降も優先順位に従って修繕や設備更新を行っていく。</p>

1 説明事項「令和4年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況(会議資料2)」について

主な意見要望等	対応状況
① 展覧会の名称の変更について、内容としては同じなのかもしれないが、来館者の立場になって考えると「不安の時代を生きる」という展覧会を見るよりも、「そのとき、岩手では」のほうがずっとわくわくした気分になる。「不安の時代を生きる」に足を運ぶ気が起きなかった方でも、展覧会の名称を変えることによって集客に結びつくのではないかと思う。これは非常によい名称変更だと思った。	
② 企画展は月に1回ずつ見ている。館長の挨拶の中でフィンランド展と高畠展が2万人を超えたとあつたが、フィンランド展の集客は何が要因だと思うか。	(前回回答) フィンランド展が大変人気だった理由としては、もともとフィンランドのデザインのファン層が多いこと、40代から60代ぐらいの女性を中心に、リピーターの方が結構いたことが挙げられる。また、グランド・ギャラリーに大規模なショップが展開して、華やかな雰囲気であったし、ヴィンテージのグッズなど品ぞろえが豊富だった。また、展覧会にたくさんヴィンテージの家具等含めて多数ご出品いただいたショップは、全国でも非常に名が知れ

	<p>ファンがたくさんいるショップで、その社長が来館し自らご案内していただいたことも話題を呼んだ。また、グランド・ギャラリーには実際に座れる椅子のコーナーを設け、子供だけでなく、大人の方にも好評だった。そして、展示室の中が全て写真撮影可能でSNSで多数拡散された。最近の傾向だが、そういう展覧会は若い方を中心に反響があることを実感した。</p>
<p>③ フィンランド展を拝見した。私はフィンランドの生活など見て楽しんだが、終わった後のグッズの販売がすごく混んでいて、やはり女子としては企画展を見たら何か記念のものを買いたい気持ちになる。高畠展もグッズがあるようだが、グッズ販売というはどうしても心引かれるので、企画展を開催する時はグッズ販売も一つ考えてほしい。絶対グッズは買いたいという気持ちになるので、ぜひお願いたい。</p>	<p>(追加回答・学芸普及) 物販の有無、その内容については、展覧会事務局の裁量によるため、館としてできることは少ない。ショッピングは、観覧のあと大きな楽しみであることはその通りなので、魅力的な物販の展開を関係者には働きかけていきたい。ちなみに、物販売上は、当館収入とは関わりがない。</p>
<p>④ 私もフィンランド展を見たが、平面的な絵画とは違い、立体的で、ぐるっと回っていろいろ四方から見ることができる。SNSを見ていても、私が見ていないところでいろいろな気づきがあって、また行きたいなという気持ちをそそられる、とてもすてきな企画展だった。やはりSNSは影響力が大きいのだなと思う。また行かなきや、ここをもう一回見たいと思わせる気持ち、わくわくがある気持ちというのは大切なのだなと思った。</p>	

2 説明事項「令和5年度事業実施状況（会議資料3）」について

主な意見要望等	対応状況
<p>① 鑑賞や美術館へ行くきっかけにICTは最適だと思っており、私もすごく評価はしているが、やはりそれは美術館に代わるものではない。私は視覚支援学校の教員をやっているが、ICTは音声しか入ってこない。そこで実際に来てもらって触って、匂いもあって、圧力もあってというものが大事だと思っている。ぜひICTだけではなくて、そういう実物というのも残してほしい。</p>	<p>(前回回答) 特別支援学校などの方々に来ていただき、ワークショップなども今は力を入れてやっている。直接実物に触れてもらう機会をこれまで特別支援学級や学校になかなか届かなかったところも声をかけ、今、これも試行して強めていこうと考えている。</p> <p>今、発言があったが、確かに直接現物を見るということは非常に大切だと思われる。出前講座で当館職員が出向き、実際にいろいろ授業すると、初めて美術館に収蔵されている作品を見た、行ったことがないでの、見てみたいというご意見も多数寄せられている。これまで来たことがなかった、そういう施設</p>

	<p>があるのも知らなかつたという方も、特に遠方に住んでいる方々に多いので、そういう方々に美術館をしっかりと理解してもらうために、まずはそういうもので触れてもらい、お父さん、お母さんに盛岡に連れてきてもらい、盛岡に行くときには美術館に行つてみたいといった感じで広まっていけば良いと考えている。</p> <p>出前授業について誤解されたかもしれないが、今やっている職員が出向く出前授業も継続しつつ、それに加えてＩＣＴのリモートの出前授業も行うということである。</p> <p>(追加回答・学芸普及) 今年度は対面での出前授業は中部教育事務所管内が対象であるが、現在のところ、申し込みがない。また、コロナ禍以降団体プログラムの利用が半減したままとなっている。ＩＣＴ利活用は推進しつつ、より教育効果の高い対面授業、美術館で本物の作品を前にしての鑑賞サポートも継続し、美術と美術館の普及に努めたいと考えている。</p>
<p>② 今の出前授業だが、具体的にどういう授業なのか、例えばコレクションを見せて説明するのか、あるいは何か作業をするものなのか、基本的なことが分からないので、教えてほしい。</p>	<p>(前回回答) 基本的には鑑賞の授業になっており、アートカードというはがき大のカードで、コレクション展で展示している作品から 40 点を選んでカードにして、それを使った授業を行っている。そのカードを並べて 1 点選んだものの共通点をみんなで見つけて並べ直したり、1 点の作品を生徒が選び、他の生徒がその選ばれた 1 点を質問しながら予想していくなど、ちょっとゲームに近いような活動だが、それらを通して作品をよく見るということを目指して、その中から魅力を見つけるということを目標としてやっている授業となっている。</p> <p>(追加回答・学芸普及) 一つ一つの作品をより深く鑑賞してもらうため、アートカードの枚数を 40 枚から 30 枚に変更した。上記の通り、まだ申し込みがないため、効果の検証は今後となる。</p>
<p>③ 同じくアウトリーチ事業について、美術館でワークショップを盛んにやっていると思うが、そういうことを学校に出向いてやるということはないのか。</p>	<p>(前回回答) 今のところは鑑賞に特化してやっている。ワークショップは当館で行うスタジオプログラムや展示に関連した事業で、幅広い年代の方を対象にしたものを作っている。今のところ社会福祉施設を対象としてはワークショップの指導も行っているが、学校に向けては鑑賞を中心に行っており、教員向けのアンケート結果は、鑑賞を美術館と連携して行いたいというような声も多かったので、今はこういった事業になっている。</p>

	<p>(追加回答・学芸普及) 県内の学校では美術の専任教員のいない学校も増えており、教員でもある普及職員も危機感を感じている。現段階では、具体的な事業として検討しているものではないが、今後、教育連携として何ができるのか、検討していきたい。</p>
<p>④ 先日 I C T授業をやっていただき、1年生を対象にして、各教室で5学級5コマを使った。 I C T授業もここ数年始まったばかりなので、まず子供たちがそういったことそのものにも興味を持っていました。先人学習なんかでも来たりしている子供たちはいるが、改めてそれを通して、もう一回行ってみたいとか、そういう感想も私のところには聞こえてきているので、おおむね好評だったのではないかと捉えている。</p> <p>我々も I C T活用が始まったばかりで、我々の研修、使い方の技術の向上ということも併せて進んでいけば、なおうまく回っていくのではと考えたところである。</p>	<p>(前回回答) 当館ではノウハウのある職員がいるので、そういうところを学校とうまく連携していかなければならない。Wi—Fiの環境がない学校ではやりたいと思ってもできないし、実は美術館もまだWi—Fiの整備がなかなか進んでいない。施設環境だけ進んでも、多額の予算がかかりなかなか進んでいないのが現状だが、こういうことが現実にできるとなれば、整備のほうも進んでいくのではと思っており期待している。ソフト面とハード面の両方の要素があるが、まずはソフト面を試行している。</p> <p>(追加回答・学芸普及) 現在 17 校から申し込みがあり、事業としてスタートしたところである。実施しながら課題を見つけ、よりよい鑑賞教育となるよう改善していきたいと考えている。</p>
<p>⑤ 1点目が「資料収集、保管、展示調査研究等の事業」とあるが、収集の内容、それから修復の内容が記載されていないので、次回は知らせていただきたい。そして、菅木志雄作品は購入に至ったのか分からないので知らせていただきたい。</p> <p>2点目が4ページのアウトリーチ事業だが、社会福祉施設にも出前授業でしょうか、職員の方が行っているとのことだが、社会福祉施設といつてもいろいろなところがある。どういう方を対象に、何を目的に、何をしているのかを教えてほしい。</p>	<p>(前回回答) 1点目について、資料収集、保管、展示事業ということで、資料に掲載されるのは展示事業のところがメインとなるが、作品の収集は年に1回進めている。昨年は菅作品の収集に関してはこの場でご意見を伺った。去年は時期尚早ではないかというご意見もあり、皆様からいただいたご提言を基に、もう少し現代美術を県民の皆さんに知っていたく、関心を持っていただく努力をしていこうということだったので、今年度は展示あるいはイベント、館長講座などでも普及に努めているところ。</p> <p>今年度も引き続き協議をしてきたが、いろいろ条件、県庁内でも調整が整わないなど、今ペンドディングになっている。今後収集の工程については、この後の方向性についてお話するので、そこで説明する。</p> <p>作品の保存に関するについては計画的に進めている。昨年度も申し上げたかもしれないが、修復の必要なもの、あるいは次世代に引き継いでいくために必要な措置、修復に関しては予算の範囲内だが、計画的に行っている。</p> <p>(追加回答・学芸普及) 昨年度の修復実績は、年報に掲載、公開している。</p>

<p>⑥ 例えば寄贈されたものとか、そういうしたものもあると思うが、公開して構わないのであれば、公開することによって資料の収集状況も分かると思う。どういうものを修復したとかというのも、もし出せるのであれば、来年以降公開しても良いのではないか。</p>	<p>(前回回答) その実績に関しては年報でまとめており毎年データをホームページに上げている。アウトリーチ事業について、美術関連研修の講師だが、先ほど社会福祉と言い間違ったかもしれないが、社会教育施設に行っており、青少年の家などに呼ばれることが多い。児童館とかの公民館の職員も対象にすることが多く、そういうところの利用者の子供に向けたワークショップを知りたいというニーズがある。当館でやっているアートデオヤコでやっているようなワークショップを少し修正して持っていくことが多く、年に3回ほど行っている。</p>
<p>⑦ そうすると、それは美術館事業と直結するものというよりは、そのような施設の方に美術館の職員の人がアイデアを求められて提供しているということか。</p>	<p>(前回回答) そのとおりです。</p>
<p>⑧ 先ほどの菅さんの作品の購入だが、コレクション展を見ていて、現代美術や、菅沼さんの作品など、それを小さい子供から楽しめるように取り組んでいることがすごく分かった。この会場に来る前に階段を上って上のところの菅さんの作品を何回も見ているが、改めて見ていて、大きなインсталレーションの作品の中に入って、作品の間をぐるぐる歩きながら見上げたり、そういう作品はいいなと思った。ぜひともコレクションの柱として菅さんの作品を収集するというのは実現してほしいと思う。2回目の館長講座のアンケートに書いたと記憶しているが、菅木志雄作品が一番充実しているのは、岩手県立美術館であってほしいという思いが強い。ただ、見方が難しいというのは全くと言って、割と菅さんと近しい美術の先生からいろいろお話を個人的に聞くが、先生も「難しいよな」と言うし、1回、2回聞いただけで、「ああ、そうなんだ」と理解が深まるようなものではない。ちっちゃい子供から大人まで、いろんなレベルのいろんな紹介をしていく企画を1回、2回ではなくて、何年、長いスパンでやっていく必要があるのではないかと思った。今のことに関連して私も賛成。鑑賞というのは予習して調べて見るのも一つの手だが、鑑賞というのは一番の最大の目的は発見だと思う。アマゾンで本を買うのと本屋で本を買うのでは、本屋へ行ったときに、あれ、こんな本もあるのかという自分の目的で</p>	

<p>はないものがあったときの驚き発見というのは、多分子供たちにはすごい印象を植え付けると思う。普及してから購入というのもあると思うが、購入してから普及という考え方のほうが私は学校教育としては賛成である。</p>	
<p>⑨ 片岡球子さんの「面構」、これもすばらしく、感激して拝見した。作品は人物の特徴を捉えすごく迫力があったが、さらに一番最後に片岡球子さんが九十何歳のときに描かれた絵は、すごく感動した。私がこの片岡球子さんを見ようと思ったきっかけは、姉から見てすごくよかったですということを聞いた。今、ラジオでも見に行った人の感想を述べてPRをしているが、すごくいいと思う。見た方々の感想を載せたPR、そういうものもどんどん進めていたら、さらに来られる方も多くなると思う。非常にありがたい企画だった。</p>	

3 説明事項「観覧者数の推移（会議資料4）」について

主な意見要望等	対応状況
<p>表の見方を教えてほしい。総利用人員の次に（うち常設展）、（うち企画展）とあるが、「うち常設展」というのは企画展をやっていない時期に入った人ということか。</p>	<p>（前回回答）企画展ではなく、常設展だけを観覧した人数。企画展をやっていても、企画展を見ず常設展だけを観覧する人もいる。</p>

4 説明事項「令和6年度事業実施計画について（会議資料5）」

「令和6年度企画展概要について（会議資料6）」について

主な意見要望等	対応状況
<p>① 来年度の企画展のサンリオ展だが、こちらは弊社もご協力させていただくことになっている。よろしくお願ひしたい。展示品について、今分かる範囲で教えてほしい。</p>	<p>（前回回答）サンリオ展の出品作品は、キティちゃんの大きなオブジェをはじめ、大小様々なものがあるが、サンリオキャラクターとコラボした現代美術作家の作品も並ぶ。2021年度に当館で展覧会を開催した深堀隆介さんの作品もあり、小さい作品だが、サンリオキャラクター風の金魚が描かれている。6作家の現代美術作家の作品と、増田セバスチャンという作家の、ぬいぐるみなどで構成された非常に大きなオブジェがあるので、デパートの催事場のようにはならず、美術館らしい雰囲気にはなると思う。その他に、サンリオさんの商品の開発段階で出てきたものや、実際に売られたものなど、恐らくレアな資料がたくさん並ぶ。いちご新聞という情報紙があ</p>

	<p>るが、そういったものの原稿や、初期の頃に漫画家たちが手がけた雑誌など、貴重なものが紹介される。時代が移り変わり、たくさんのキャラクターが展開し、いろいろなところに波及していく様子をたどる内容。「カワイイ」という切り口として、この60年の間に、サンリオが社会に仕掛けてきたことが分かる、そういう内容になっている。その他、実際にお子様たちが楽しめるインターラクティブな映像、映像に触るとパッと絵が変わるなどお楽しみコーナーもある。</p>
<p>② 企画展について、すごく工夫して一般の方が美術館に初めて来る人も楽しめるようなもの、そしてそれに岩手とか東北の情報を絡めているものがあるというのはすごく感じた。ただ、巡回展になっていて、美術館ではなくてもできるパッケージになっている展覧会もやらざるを得ないのかもしれないというのが透けて見えるような感じだが、先ほど収支を考えなくてはいけないという話があった。美術館の皆さんはもちろんご存じだと思うが、一応協議会の皆様もいるのでお話しすると、岩手県立美術館は美術館という名前だが、博物館という中に入る。その博物館の設置根拠として博物館法というのがあって、その第26条には「公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。ただし、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる」となっている。収支を考えなくてはいけない当世の事情もよく分かるが、岩手県は最低賃金が全国最下位というような県でもあることから、収支をあまり考えず事業が展開できるようになるといいのだろうという、それを忘れないで事業を組んでほしい気持ちもある。</p> <p>あとは、県立美術館の学芸員の皆さん非常に優秀な方がそろっているので、巡回をするためのイベントをこなすための要員になって、調査や研究をする時間が取られる、削られるようなことが今あるのかないのか、私は全く分からぬが、そういうことがないことを願っている。「そのとき、岩手では」は、こういう皆さんの力が結集をするような展覧会だろうが、そういった展覧会も継続して次年度以降も展開していくよう期待している。そういうバランスを取りながら展覧会活動をしていただければと思う。</p>	

<p>③ 同じく企画展に関してだが、今説明聞くと岩手ゆかりの方がこの中にも何人もいるというのが分かるが、ぱっとタイトルだけ見ると、何か岩手関連のものを来年やらないのだなと思った。やはり岩手県立美術館なので、岩手関連の作家の展覧会をやるというのが、年間一、二本程度で行うというのが館の方針にもあったと思う。そういった岩手との関連、この方とはこういった岩手との関連があることなどを紹介しつつ、展覧会の構成にこれからもしできるのであれば、そういったところを PUSH していただけるといいのかなと思った。</p>	<p>(前回回答) 前段のすばり自主企画のようなものであれば岩手ゆかりの作家とかということが分かりやすいが、そうでないものについても、岩手との関連性を企画展に盛り込むよう心掛けている。今回の高畠展でも宮沢賢治との関連について、岩手独自のコーナーを設けた。このように、岩手と関連づけて興味を持っていただけるような紹介の仕方を考えている。</p> <p>先ほど収支というお話があったが、収支というよりも博物館として役割を果たす、ということもあるかと思う。しかし、これは裏返すとやっぱり多くの方に見てもらうということが唯一できることと思われる。多くの方に足を運んでもらうことで、結果的に収支のほうも賄えるようにというふうに考えている。ご理解いただきたい。</p>
<p>④ 次年度の会期期間は決まっているとは思うが、3番のサンリオは、親子で小さい子供とかと一緒に来ると思う。そのような企画展をぜひ夏休みの時期に合わせてほしい。8月10日だとお盆で、それが終わるともう学校が始まる時期になってしまふ。学校の行事などに合わせると親子で一緒に来ることができる。</p> <p>もう一点、岩手県のアンケートがあり、そこで地域のことに関心を持っている生徒が大変多いようなアンケート結果があった。ぜひ岩手の伝統芸能、美しい衣装やお面など、そういったものも企画展に入れてほしい。どこも小中学校は合併していて地域の伝統を引き継げない状況になってきているが、子供たちもおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に見に行くことができると思う。ぜひコンサートのところに伝統芸能を1つ入れていただければ、関連づけて見ていいけるのではと思っている。</p>	<p>(追加回答・学芸普及) かつてはイベントやコンサートに、地元の神楽や伝統芸能を上演してもらったこともあった。</p> <p>機会があれば、またそういう要素を取り入れることも検討していきたい。</p>
<p>⑤ 個人的には来年度は堀内誠一さんと柚木沙弥郎さんが楽しみ。この会議に出席するに当たって、少し周りの人にも聞いてみたが、昔はモネとかピカソとか、いわゆるビッグネームのものも来ていたが、最近はないという話もあった。東京などで今すごく当たり前のようにやっているが、なかなか行けなかつたりするので、そういうのはたまにはあってもいいかなという話もあった。今後、もしできるのであれば開催してほしい。</p>	<p>(追加回答・学芸普及) 海外ものの企画は開催経費が特に大きく、地方の美術館では予算化が難しいため、大都市圏のみの開催となるのが常である。当館においても、海外展の実施は難しい状況である。</p> <p>なお、大規模な展覧会の計画にあたっては、民間企業を入れた実行委員会方式で開催するなど、工夫しているところである。</p>

6 「その他」について（岩手県立美術館の美術品等の収集に係る方針等について）

主な意見要望等	対応状況
① 収集についての説明ということだったが、現代美術と言われるもの実績紹介が非常に長かったということは、裏を返せば、それが非常に困難な状況がちらついているということなのか。	(前回回答) そのとおりです。
② 意見ではないが、今改めて 20 年いろんなことをやっていると思ったので、次回の委員会のときから結構だが、これまでやった展覧会一覧みたいな資料が 1 つあると参考になると思う。	
③ 事業内容から離れてしまうが、レストランの再開についてお話をいただきたい。	(前回回答) レストランについては、様々な要因で業者が撤退をして、今空きスペースとなっている。再開のためには、機器等の更新やそれに伴う工事が必要。また、従前やっていたようなレストランでの再開か、軽く飲食しながら休憩するようなスペースにするなども検討しながら、予算も含め府内でも検討を始めている。来年度中には見通しを立てていくよう今進めているところである。 (追加回答・総務) 休業中のレストランの活用としては、サンリオ展開幕に合わせて、8 月 10 日から 25 日までは毎日、それ以降は土日祝を飲食ができる臨時フリースペースとして開放している。今後は、民間事業者の意向を確認しながら、レストランに入居する事業者を広く募集していく計画である。
④ フィンランドのイベントの際にホテルでお料理等も提供した。和食、洋食、中華、あとベーカリ一部門とあるが、洋食とベーカリ一部門の社員が東京のフィンランドの料理を扱っているレストランに出張し、料理を勉強して戻ってきて、クローバーというニューウィングの 1 階のラウンジでシナモンロールとブルベリーパイを提供したが、すごく好評だった。今からこのシナモンロールを食べて美術館さんに見に行きますというお客様もいらっしゃった。2 階のジョバンニというレストランがバイキング形式であるが、そこでも小エビのヨーグルトソースサラダ仕立て、フィンランド風ミートボール、ジャガイモとアンチョビのポテトグラタンなどの提供をして、すごく好評だった。	(追加回答・学芸普及) 展覧会に関連して、地元企業とのコラボレーションも機会あるごとに進めていきたい考えである。
⑤ 本日は初めてこちらの会に参加した。我々 40 歳までの世代で構成されている団体で、子育て世代で	(追加回答・学芸普及) 美術館の情報発信については、いろいろな媒体を利用しているが、HP や SNS を

あたり、それぞれの仕事に日々追われている中で、なかなか触れる機会がないような話をたくさん聞くことができ大変貴重な時間、体験だった。企画展の予定とかも聞き、とても興味深い、行ってみたいと思えるようなお話をだつた。なかなかふだんそういう情報に接する機会が私自身も少なかったというのを今日すごく感じたので、20代から40代ぐらいの層の人たちが情報をキャッチできるような状況になってくると、また足を運ぶ方も増えてるのではと思いながら話を伺つた。

⑥ 児童センターというこの町内にある施設にいるのが、本宮・向中野町内会の事務局もしている。この美術館についての話題もたまにある。美術館というよりも、中央公園の整備状況についての話題があがる。実はこの中央公園が盛岡市の施設で、そこに県立美術館がある。盛岡市の施設の先人記念館がある。この整備計画をやってほしいと町内会のほうから市のほうに要望も出している。この整備状況も道路ができ、農地法にかかっている調整区域が外れて道路ができ、子ども科学館の隣の家が立ち退いて整備される。間もなく生まれ変わらぬのかなと思っているが、若干遅くなるというようなことで、町内会のほうではいろんな要望を出している。そういうことで、この辺も大分変わらぬのかと思っている。盛岡市のやり取りで町内会のほうはそのような動きもある。

中心に、タイミングよく情報を届けられるよう、心掛けている。

狙った層に情報を行き渡らせるのは容易ではないが、情報発信を継続していくこと、また機会を捉えて美術館の様子を知つてもらうことで、周知に努めたい。

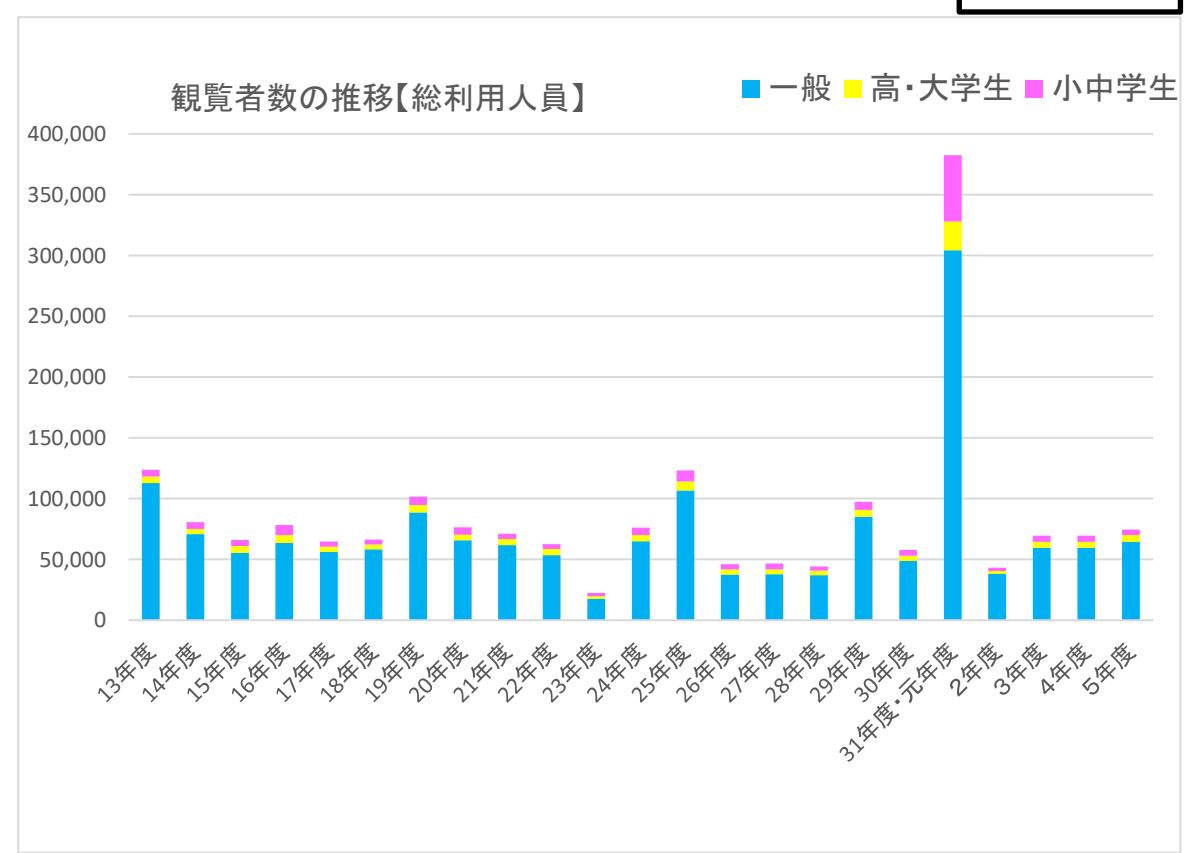
観覧者数の推移

資料 3-1

区分年度	個人利用				団体利用				免除利用				総利用人員								開館日数	1日平均利用人数
	一般	高・大学生	小中学生	計	一般	高・大学生	小中学生	計	一般	高・大学生	小中学生	計	一般	高・大学生	小中学生	計	(うち常設展)	(うち企画展)	(うち移動美術館)			
13年度	89,875	4,151	4,602	98,628	3,081	292	70	3,443	19,780	1,027	804	21,611	112,736	5,470	5,476	123,682	21,869	101,813	-	151	819	
14年度	43,048	2,495	2,234	47,777	10,407	515	202	11,124	17,466	1,233	2,961	21,660	70,921	4,243	5,397	80,561	15,945	62,832	1,784	315	256	
15年度	35,585	2,410	1,937	39,932	4,894	471	254	5,619	14,903	2,601	2,920	20,424	55,382	5,482	5,111	65,975	11,688	52,992	1,295	316	209	
16年度	44,237	3,658	4,807	52,702	3,845	619	108	4,572	15,522	2,201	3,342	21,065	63,604	6,478	8,257	78,339	10,388	66,949	1,002	314	249	
17年度	37,525	2,497	1,703	41,725	3,051	408	132	3,591	15,735	1,228	2,445	19,408	56,311	4,133	4,280	64,724	6,319	57,357	1,048	312	207	
18年度	37,196	2,301	1,900	41,397	3,579	324	48	3,951	17,538	1,438	2,102	21,078	58,313	4,063	4,050	66,426	6,130	59,760	536	315	211	
19年度	64,367	3,535	4,069	71,971	3,837	987	71	4,895	20,391	1,727	2,730	24,848	88,595	6,249	6,870	101,714	7,124	94,590	-	317	321	
20年度	44,384	2,609	2,505	49,498	3,071	413	70	3,554	18,231	1,452	3,728	23,411	65,686	4,474	6,303	76,463	6,816	69,647	-	316	242	
21年度	45,578	3,034	1,437	50,049	2,380	436	35	2,851	13,836	1,474	2,998	18,308	61,794	4,944	4,470	71,208	7,158	64,050	-	307	232	
22年度	36,790	2,931	1,590	41,311	2,055	583	35	2,673	14,780	1,402	2,515	18,697	53,625	4,916	4,140	62,681	5,830	56,851	-	303	207	
23年度	9,742	382	0	10,124	589	285	0	874	7,412	1,261	2,702	11,375	17,743	1,928	2,702	22,373	17,681	4,692	-	306	73	
24年度	49,595	2,432	2,167	54,194	1,428	599	3	2,030	13,831	2,035	3,944	19,810	64,854	5,066	6,114	76,034	23,113	52,921	-	308	247	
25年度	86,971	1,674	1,980	90,625	1,796	362	0	2,158	17,895	5,360	7,240	30,495	106,662	7,396	9,220	123,278	5,919	117,359	-	310	398	
26年度	24,038	1,436	1,352	26,826	781	595	13	1,389	12,686	2,397	2,771	17,854	37,505	4,428	4,136	46,069	5,853	40,216	-	310	149	
27年度	21,266	1,505	1,091	23,862	2,533	298	363	3,194	14,169	2,121	3,395	19,685	37,968	3,924	4,849	46,741	5,701	41,040	-	310	151	
28年度	16,405	1,215	423	18,043	7,764	654	342	8,760	12,776	1,999	2,657	17,432	36,945	3,868	3,422	44,235	6,192	38,043	-	314	141	
29年度	50,497	2,974	2,673	56,144	17,438	758	1,212	19,408	17,221	1,869	2,727	21,817	85,156	5,601	6,612	97,369	5,551	91,818	-	312	312	
30年度	24,486	1,826	958	27,270	12,621	614	765	14,000	11,611	1,733	3,134	16,478	48,718	4,173	4,857	57,748	6,145	51,603	-	312	185	
31年度・元年度	247,671	19,774	45,593	313,038	34,484	1,804	5,537	41,825	22,115	2,146	3,309	27,570	304,270	23,724	54,439	382,433	6,098	376,335	-	313	1,222	
2年度	20,322	994	393	21,709	10,000	258	305	10,563	7,826	1,143	2,030	10,999	38,148	2,395	2,728	43,271	5,060	38,211	-	297	146	
3年度	50,456	3,204	3,029	56,689	382	1,091	381	1,854	8,887	430	1,666	10,983	59,725	4,725	5,076	69,526	5,186	64,340	-	277	251	
4年度	37,373	3,399	1,728	42,500	151	50	0	201	7,826	1,506	2,156	11,488	45,350	4,955	3,884	54,189	5,186	49,003	-	310	175	
5年度	54,184	3,548	2,572	60,304	958	274	76	1,308	9,361	1,786	1,796	12,943	64,503	5,608	4,444	74,555	9,557	64,998	-	297	251	
計	1,117,407	70,436	88,171	1,276,014	130,167	12,690	9,946	152,529	322,437	39,783	64,276	426,496	1,570,011	122,635	162,393	1,855,039	196,952	1,652,422	5,665	6,645	279	

資料 3-2

区分年度	総利用人員			
	一般	高・大学生	小中学生	計
13年度	112,736	5,470	5,476	123,682
14年度	70,921	4,243	5,397	80,561
15年度	55,382	5,482	5,111	65,975
16年度	63,604	6,478	8,257	78,339
17年度	56,311	4,133	4,280	64,724
18年度	58,313	4,063	4,050	66,426
19年度	88,595	6,249	6,870	101,714
20年度	65,686	4,474	6,303	76,463
21年度	61,794	4,944	4,470	71,208
22年度	53,625	4,916	4,140	62,681
23年度	17,743	1,928	2,702	22,373
24年度	64,854	5,066	6,114	76,034
25年度	106,662	7,396	9,220	123,278
26年度	37,505	4,428	4,136	46,069
27年度	37,968	3,924	4,849	46,741
28年度	36,945	3,868	3,422	44,235
29年度	85,156	5,601	6,612	97,369
30年度	48,718	4,173	4,857	57,748
31年度・元年度	304,270	23,724	54,439	382,433
2年度	38,148	2,395	2,728	43,271
3年度	59,725	4,725	5,076	69,526
4年度	59,725	4,725	5,076	69,526
5年度	64,503	5,608	4,444	74,555
計	1,570,011	122,635	162,393	1,855,039



展覧会名	期間	開催日数	観覧者数	
			計	単位
1 みちのく いとしい仏たち展	4.8～5.21	38	8,268	
2 片岡球子展	6.3～7.17	39	5,600	
3 フィンランドのライフスタイル展	7.29～9.10	40	22,182	
4 高畑勲展	9.30～12.17	68	23,394	
5 そのとき、岩手では展	1.6～2.18	38	2,482	
6 アートフェスタ2023	3.2～3.24	20	2,823	
		計	64,749	

令和6年度事業実施状況 〈令和6年4月1日～令和6年7月31日〉

1 美術等に関する資料収集、保管、展示調査研究等の事業

ア 受託事業

事 業 名	主 な 事 業 内 容	
(1) 展示事業	常設展示の充実を図るとともに、様々なテーマによる国内外の企画展等を開催	
【学芸業務】	<p>ア コレクション展</p> <p>所蔵作品を広く公開し、郷土ゆかりの作家や作品を紹介。年4回の展示替え。</p> <p>① 5年度第4期 「空想の世界を描く」 【7月末現在】 会期：(令和6年1月27日(土))4月1日(月)～4月21日(日) 観覧者数 600人</p> <p>② 第1期 「どうぶつかたち」 2,303人 会期：令和6年4月26日(金)～7月15日(月・祝)</p> <p>③ 第2期 「百瀬寿一進化する絵画」 229人 会期：令和6年7月20日(土)～10月20日(日)</p> <p>④ 第3期 「陸前高田市被災作品 その1」 会期：令和6年10月26日(土)～令和7年1月19日(日)</p> <p>⑤ 第4期 「陸前高田市被災作品 その2」 会期：令和7年1月25日(土)～3月31日(月)(4月20日(日)まで)</p>	
	計 3,132人	
イ 企画展	<p>① 堀内誠一 絵の世界 観覧者数 8,827人 会期：令和6年4月13日(土)～6月2日(日) 【44日間】</p> <p>② 川端龍子展 4,774人 会期：令和6年6月15日(土)～7月28日(日) 【38日間】</p> <p>③ サンリオ ニッポンのカワイイ文化60年史 会期：令和6年8月10日(土)～10月6日(日) 【51日間】</p> <p>④ 柚木沙弥郎 永遠のいま 会期：令和6年10月19日(土)～12月22日(日) 【56日間】</p> <p>⑤ 平間至展 写真と音楽があるかぎり 会期：令和7年1月11日(土)～2月24日(月・祝) 【40日間】</p> <p>⑥ アートフェスタいわて2024 会期：令和7年3月4日(火)～3月23日(日) 【18日間】</p>	
	計 13,601人	

事 業 名	主 な 事 業 内 容
(2) 教育普及事業 【学芸業務】	<p>講演会、ワークショップ等を実施し、美術と美術館利用についての普及活動を推進</p> <p>ア 展示関連事業</p> <p>〈企画展教育プログラム〉</p> <p>(1) ギャラリートーク 学芸員による企画展示作品の解説</p> <p>① 堀内誠一 絵の世界 (4/19 (金)、5/3 (金)、5/17 (金))</p> <p>② 川端龍子展 (6/21 (金)、7/5 (金)、7/19 (金))</p> <p>③ サンリオ ニッポンのカワイイ文化60年史 (8/17 (土)、8/25 (日)、9/21 (土))</p> <p>④ 柚木沙弥郎 永遠のいま</p> <p>⑤ 平間至展 写真と音楽があるかぎり</p> <p>⑥ アートフェスティワ2024</p>
	参加者数 142人
	54人
	計 196人
(2) 企画展関連講座等	<p>① 堀内誠一 絵の世界</p> <p>・開幕記念講演会「絵を愛した父」 4/13 (土)</p> <p>講師：堀内花子氏（作家長女、堀内事務所代表）</p> <p>参加者数 136人</p> <p>・講演会「『BRUTUS』はこうしてできた。堀内さんとの仕事と思い出」 5/11 (土)</p> <p>講師：石川次郎氏（エディトリアルディレクター、「BRUTUS」元編集長）</p> <p>105人</p> <p>・ワークショップ「飾ってかわいいガーランドとくるくる回るモビール作り」</p> <p>5/18 (土)</p> <p>② 川端龍子展</p> <p>・講演会「日本画家・川端龍子の会場芸術」 7/6 (土)</p> <p>講師：木村拓也氏（大田区立龍子記念館 学芸員）</p> <p>73人</p> <p>・講演会「『会場芸術』の源流—技法材料から考察する龍子作品—」 7/14 (日)</p> <p>講師：金子朋樹氏（東北芸術工科大学 准教授）</p> <p>45人</p> <p>③ サンリオ ニッポンのカワイイ文化60年史</p> <p>④ 柚木沙弥郎 永遠のいま</p> <p>⑤ 平間至展 写真と音楽があるかぎり</p> <p>⑥ アートフェスティワ2024講演会</p>
	計 434人
〈コレクション展教育プログラム〉	
(1) コレクショントーク	
学芸員によるコレクション展示作品の解説（月2回）15回	参加者数 53人
(2) コレクション展関連講座	
コレクション展に関連した講演会、ワークショップ等	計 53人

事 業 名	主 な 事 業 内 容		
(教育普及事業)	イ 美術普及事業 〈スタジオプログラム〉 <p>(1) オープンスタジオ 7/27 (土) ~28日 (日) 参加者数 167人</p> <p>(2) アートデオヤコ 親子でいろいろな素材に触れて楽しむワークショップ ・ 対象: 3~6歳児と保護者 (月1回、10組) 5回 48人</p> <p>・ こどもの日スペシャル (5/5 (日・祝)) 273人</p> <p>計 488人</p>		
	〈教育プログラム〉 <p>学生サポートスタッフの受入れ・育成 隨時 受入人数 13人</p>		
	〈美術プログラム〉 <p>(1) 館長講座 「作り手の視点」(全4回) 講師: 藦谷収 (当館館長)</p> <p>①「彫刻・新しい表現を求めて」 5/25 (土) 参加者数 22人</p> <p>②「盛岡彫刻シンポジウム50周年から」 8/24 (土)</p> <p>③対談「イタリア・カッラーラを語る」 11/9 (土)</p> <p>④「今後の岩手の彫刻について」 2/22 (土)</p> <p>計 22人</p>		
	<p>(2) 学芸員講座 年2回程度</p> <p>.</p>	参加者数	
	<p>(3) 実技体験講座 年6回</p> <p>①人体デッサン 11/11 (土)</p> <p>②日本画基礎 11/23 (土)</p>	参加者数	
		計	
	〈映像プログラム〉 <p>(1) アートシネマ上映会 年12回程度</p> <p>美術に関連する作品から名作映画まで幅広いラインナップで上映</p> <p>①オズの魔法使 4/21 (日) 鑑賞者数 47人</p> <p>②道 5/12 (日) 57人</p> <p>③どら平太 6/23 (日) 42人</p> <p>④伊賀の水月 剣雲三十六騎 7/21 (日) 37人</p> <p>⑤ブレッドウィナー 8/18 (日)</p> <p>⑥ミステリアス・ピカソ 天才の秘密 9/15 (日)</p> <p>⑦シャレード 10/20 (日)</p> <p>⑧出来ごころ 11/10 (日)</p> <p>⑨ムーミン谷とウィンターワンダーランド 12/15 (日)</p> <p>⑩惑星ソラリス 1/19 (日)</p> <p>⑪こねこ 2/16 (日)</p> <p>⑫M.C. エッシャー 3/23 (日)</p>		
		計	183人

事 業 名	主 な 事 業 内 容
(教育普及事業)	<p>(2) アートスペース、デジタルビジョン、デジタルレファレンス</p> <p>①ライブラリー 通年</p> <p>②デジタルビジョン 美術に関連した映像作品を無料公開 通年</p> <p>③デジタルレファレンス 通年</p> <p>ウ アウトリーチ事業</p> <p>(1) 美術館出前授業（職員講師） 地区ごとに順次実施</p> <p>(2) 美術関連研修講師派遣（同） 随時</p>
	<p>参加者数 28人</p> <p>計 28人</p>
エ 来館者対応事業	
	<p>(1) 美術館探検（てくてくツアー） 年6回</p> <p>5/18（土）、7/20（土）、9/21（土）、11/16（土）、1/18（木）、3/15（金）</p> <p>(2) 一般団体等対応</p> <p>①一般団体対応</p> <p>②ファミリータイムの導入</p> <p>小さな子どもと大人が一緒に美術館を利用しやすい時間帯の設定</p> <p>毎月第2木曜日・第4土曜日 13回実施</p>
	<p>参加者数 21人</p> <p>35人</p> <p>53人</p> <p>計 109人</p>
	<p>(3) 学校団体対応（21団体）※生徒インタビュー含む</p>
	<p>参加者数 661人</p>
(3) 広報事業	美術館ニュース等の各種広報物の印刷・配布による広報業務を実施
【学芸業務】	<p>(1) 美術館通年広報</p> <p>(2) 広報協力店による情報発信（令和6年7月31日現在 284店舗）</p> <p>(3) 広報番組での各種事業の紹介</p> <p>(4) 美術館ニュース「アブリーレ」（年2回 各回約14,500部発行）の発行</p> <p>(5) 企画展チラシ、ポスターの発行</p> <p>(6) 常設展展示目録（展示替え毎）の発行</p> <p>(7) 美術館スケジュール（年4回 各回約15,000部）の発行</p> <p>(8) ホームページでの広報宣伝</p> <p>(9) ツイッター及びフェイスブックでの発信</p>
(広報事業)	
(4) その他の事業	<p>ア 調査研究活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ライブラリー 通年 ・ ライブラリー企画 年6回 ・ 蔵書整理公開 <p>イ 美術品修復、保存事業</p> <p>県民の財産である美術品をより良い状態で保存して後世に伝えるため、所蔵作品の修復と保存業務を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 油彩等数点の修復を計画（詳細については年報で報告）
【学芸業務】	

イ 自主事業

事 業 名	主 な 事 業 内 容
(1) 美術(館)に親しむ事業	<p>ア 特別自主事業「まるっと楽しむアートイベント2024」～どんどん！ワクワク！現代美術～ 観覧者誘因策として有料観覧者数1,000人を達成目標にイベントを実施する。</p> <p>① 菅木志雄作品の特別展 10月3日（木）-11月24日（日）</p> <p>② メインイベント 11月3日（日・祝） 学芸員講座特別編、座談会ほか</p> <p>イ コンサート事業 美術館固有の空間を活用し、コンサートホールとはひと味違った音楽等の鑑賞の機会を提供する。多様な芸術体験の場として美術館をより多くの県民に知ってもらう。</p>
(2) その他の事業	図録等著作物販売サービス事業 美術館発行の図録の頒布を行い、利用者サービスの充実を図る。

(2) 指定管理事業

事 業 名	主 な 事 業 内 容																																																
指定管理事業 【指定管理】	<p>観覧料の徴収及び管理運営</p> <p>(1) 臨時開館日 8月13日（火）、2月10日（月）</p> <p>(2) 観覧料無料の日</p> <p>① こどもの日 5月5日（日・祝） 対象：18歳未満の児童生徒</p> <p>② 敬老の日 9月16日（月・祝） 対象：満65歳以上</p> <p>③ 文化の日 11月3日（日・祝） 対象：全員</p> <p>(3) 観覧者数等の状況</p> <p>【7月31日現在の観覧者数 単位：人】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>小計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6年度 a</td><td>2,647</td><td>6,638</td><td>3,734</td><td>3,714</td><td>16,733</td></tr> <tr> <td>5年度 b</td><td>3,665</td><td>6,154</td><td>3,604</td><td>5,289</td><td>18,712</td></tr> <tr> <td>増減(a-b)</td><td>▲ 1,018</td><td>484</td><td>130</td><td>▲ 1,575</td><td>▲ 1,979</td></tr> </tbody> </table> <p>(4) 教育普及事業の状況</p> <p>【7月31日現在の参加者数 単位：人】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>小計</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6年度 a</td><td>333</td><td>774</td><td>480</td><td>611</td><td>2,198</td></tr> <tr> <td>5年度 a</td><td>385</td><td>507</td><td>287</td><td>862</td><td>2,041</td></tr> <tr> <td>増減(a-b)</td><td>▲ 52</td><td>267</td><td>193</td><td>▲ 251</td><td>157</td></tr> </tbody> </table> <p>(5) 地域連携事業による広報活動</p> <p>岩手県立美術館、盛岡市先人記念館、原敬記念館、盛岡市子ども科学館、盛岡市遺跡の学び館、志波城古代公園で組織する「もりとぴあねっと」に参画し、地域連携事業を実施</p> <p>① さんさこみち共同告知コーナーの活用（企画展の告知）</p> <p>② もりとぴあねっと企画会議等 2ヶ月に1回程度開催</p> <p>③ 「もりとぴあねっとだより」の作成と配布 隔月発行</p>	年度	4月	5月	6月	7月	小計	6年度 a	2,647	6,638	3,734	3,714	16,733	5年度 b	3,665	6,154	3,604	5,289	18,712	増減(a-b)	▲ 1,018	484	130	▲ 1,575	▲ 1,979	年度	4月	5月	6月	7月	小計	6年度 a	333	774	480	611	2,198	5年度 a	385	507	287	862	2,041	増減(a-b)	▲ 52	267	193	▲ 251	157
年度	4月	5月	6月	7月	小計																																												
6年度 a	2,647	6,638	3,734	3,714	16,733																																												
5年度 b	3,665	6,154	3,604	5,289	18,712																																												
増減(a-b)	▲ 1,018	484	130	▲ 1,575	▲ 1,979																																												
年度	4月	5月	6月	7月	小計																																												
6年度 a	333	774	480	611	2,198																																												
5年度 a	385	507	287	862	2,041																																												
増減(a-b)	▲ 52	267	193	▲ 251	157																																												

【美術品等収集に係る方針等】

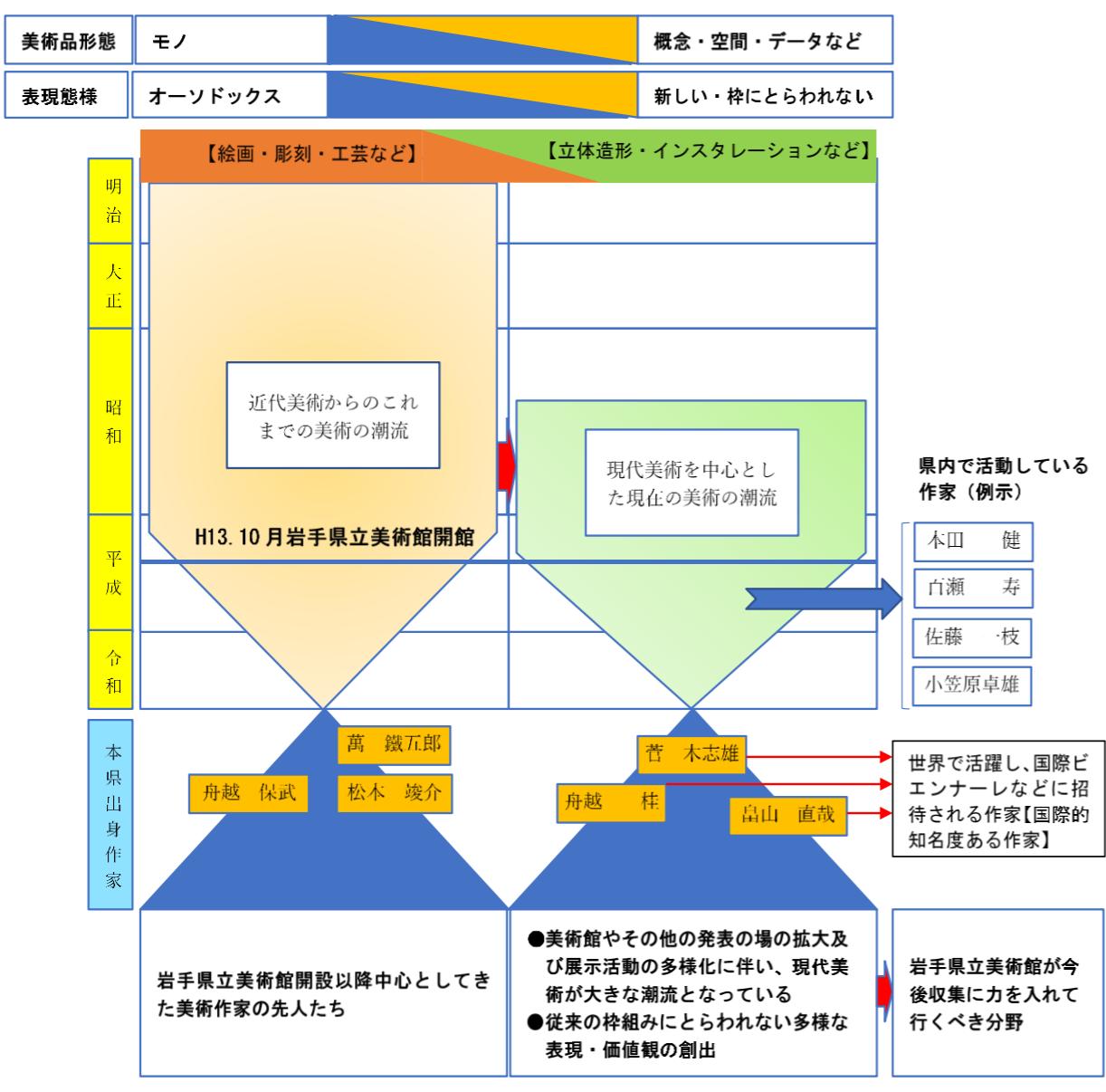
1. 美術館整備基本構想（平成6年6月）における美術品等収集方針

- (1)収集の対象は、原則として近・現代の優れた美術品とする。
- (2)本県出身及び本県ゆかりの作家の作品の収集を重点的に行い、それらと関連のある作家の作品を中心として、国内外の優れた美術品を収集する。
- (3)関連資料の収集に努める。

2. 美術館整備基本計画（平成7年11月）における美術品等収集体系

- (1)岩手の美術…本県出身及び本県ゆかりの作家の優れた作品を収集する。
- (2)日本の美術…本県出身及び本県ゆかりの作家と関連のある作家の作品を中心とする。
- (3)世界の美術…本県出身及び本県ゆかりの作家の関連のある作家の作品を中心とする。

収集・展示の考え方（イメージ）



【開館以降の現代美術に関する展示状況】

【開館以降の現代美術に関する展示状況】

①インスタレーション事業実施（平成13年度～18年度）
展示室での開催に適しないジャンルの美術を取り上げ、美術の多様さと広がりを県民に紹介することを目的に実施。屋外展示スペース及び館内各所で展開。

年度	作家	摘要
2001年 平成13	辻けい	染色家。立体や布、映像を用いたインスタレーション。
2002年 平成14	ニルス・ウド	企画展関連。屋外展示スペースでのインスタレーション。
2003年 平成15	和泉正敏	石の彫刻家。石作品を館内外に配置。
2004年 平成16	牧岡一生	作庭作家。石作品を館内外に配置。
2005年 平成17	菅木志雄	現代美術家。全館でインスタレーション、これを機に作品収集。
2006年 平成18	眞坂雅文	彫刻家。光を用いたインスタレーション。

②企画展開催（岩手県ゆかりの作家関係のみ抜粋）

年度	企画展名	開催期間	摘要
2002年 平成14	島山直哉写真展	8/3～9/17	この前年にヴェニス・ビエンナーレ日本代表作家に選出。
2003年 平成15	舟越桂展	1/24～3/28	ヴェネツィア・ビエンナーレやサンパウロ・ビエンナーレをはじめとする国際展への出品、平塚田中賞や中原悌二郎賞受賞など、独特的な表現と雰囲気を持つ舟越の木彫作品は国内外で高い評価を獲得。
2010年 平成22	百瀬寿展 MOMOSE Hisashi 1970-2010	9/11～11/23	最新作や、インスタレーションを含む約100点を紹介。
2011年 平成23	アートのチカラ、いわてのタカラ（復興支援展示事業） 「70、'80年代生まれの美術家たち、IMA（いま）ここで」展 「私たちがIMA在ること7人の中堅作家による展」	7/2～9/28	館長と学芸員が推薦する10人の若手作家を紹介。
2012年 平成24	「ユーモアのすすめ 福田繁雄大回顧展」	9/11～11/11	ボスターや立体作品により、福田繁雄の仕事の全貌に迫る、過去最大規模の回顧展。
2013年 平成25	冬のみず、山あるき 一東島毅+本田健展	11/16～2/16	東島毅は岩手市、本田健は遠野市を拠点に制作を続ける二人の気鋭の画家による展示。
2016年 平成28	2016年のIMA-岩手の現代美術家たち	9/3～10/16	館長と学芸員が推薦する7人の作家を紹介。
2021年 令和3	開館20周年記念 舟越桂（もの）の存在と（場）の永遠	12/18～2/20	1960年代から半世紀以上に渡る制作の歴史を、インスタレーション、リーフ、ドローイング、写真、映像など約120点の作品で辿る展覧会。
2022年 令和4	「IMAをうつす7人－岩手の現代美術家たち－」	11/26～2/12	館長と学芸員が推薦する7人の作家を紹介。

【学校現場からの要請】

1. 現在の学習指導要領に則った教科用図書には、校種に関わらず現代美術の作品が掲載されていること。
2. 現代美術の多様性という性格上、教育現場で美術を扱うことが難しい状況にあること。（教員が研修のための時間を確保する余裕がない、教員の専門性の違い、特に小学校教員の負担感などの理由）

県立美術館の役割

学芸

県立美術館において、美術品等収集方針に基づき、長期的視点に立って計画的に県民に資するための美術品を取得整備する。

普及

デジタル回線を利用し、県立美術館と県内各地の学校等とをむすんだリモート授業等により、県立美術館の収蔵品をもとに県立美術館職員による解説を含めた授業を実施し、子どもたちに優れた美術品と触れる機会を与えるとともに、教育現場における鑑賞授業を支援する。

【普及事業】

【コレクション展示の方向性】

1. 所蔵作品を広く公開し、郷土ゆかりの作家や作品を県民に紹介する。

岩手県ゆかりの作家・主な作品の認知度を高める

2. 美術館所蔵の現代美術作品をわかりやすく紹介・展示し、現代美術に関する理解の普及を図る。

R5年度のコレクション展示のような企画を継続して実施

3. 岩手県出身及び岩手県ゆかりの作家の優れた美術品について、調査・研究に基づいた価値を県民に紹介し、岩手県民への理解の浸透を図る。

岩手県出身作家についての県民理解を深めるような紹介・展示

参考：【美術品取得の流れ】

1. 県立美術館として取得を希望する美術品について取得計画を教育委員会事務局に提出

↓

2. 県において、県有財産としての取得の手続き【美術品収集評価委員会の審査を経由】

↓

3. 県として取得された美術品が、県立美術館に収蔵され展示

令和6年度の美術品取得については、下記の考え方で県教育委員会に取得について要請しているところ。

(1) これまでに企画展を開催し、今後も当館の所蔵美術品コレクションに追加し、広く県民に公開して理解醸成を図るとともに観覧していただくことが適當と考えられる作品

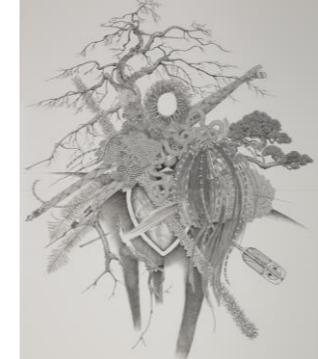
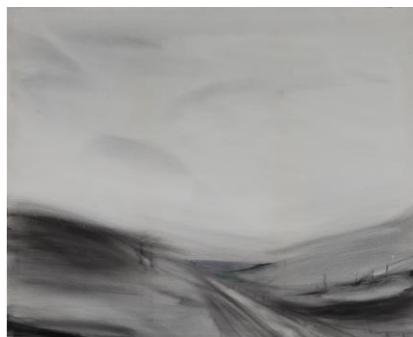
①菅 木志雄（すが きしお）(令和3年度企画展「菅木志雄展」を開催。既収蔵作家)

②舟越 桂（ふなこし かつら）(平成15年度企画展「舟越桂展」を開催。既収蔵作家)

③泉田 之也（いずみだ ゆきや）、宇田 義久（うだ よしひさ）、中島 香緒里（なかじま かおり）、増子 博子（ますこ ひろこ）(令和4年度企画展「IMAをうつす7人展」を開催。泉田・宇田は既収蔵作家)

(2) これまでのコレクション展における特集展示した作家の作品のうち、今後当館の所蔵美術品コレクションに追加し、広く県民に公開し観覧していただくことが適當と考えられる作品

④杉本 みゆき（すぎもと みゆき）(令和4年度第4期コレクション展特集展示開催。既収蔵作家)

作家名	①菅 木志雄	②舟越 桂	③泉田之也、宇田義久、中島香緒里、増子博子	④杉本 みゆき
作家経歴	<ul style="list-style-type: none"> ■岩手県盛岡市生まれ、幼少期は岩泉町、北上市、花巻市に在住。岩手県立花巻北高等学校卒業。 ■多摩美大卒業。静岡県伊東市を拠点に制作活動 ■1970年第5回ジャパン・アート・フェスティバル大賞受賞 ■元多摩美大講師、元金沢美術工芸大学大学院専任教授。 ■2016年第57回毎日芸術賞受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ■岩手県出身（生後東京へ転出） ■彫刻家舟越保武の次男 ■東京造形大卒業、東京芸術大大学院修了 ■1988年第43回ヴェネツィア・ビエンナーレ出品 ■主なパブリック・コレクションに、東京国立近代美術館、メトロポリタン美術館（ニューヨーク） 	<ul style="list-style-type: none"> ③-1 泉田之也：陸前高田市生まれ、現在野田村在住。2017年「国際陶芸ビエンナーレ2017」招待出品 ③-2 宇田義久：福島県会津若松市生まれ、現在盛岡市在住 ③-3 中島香緒里：奥州市生まれ、現在盛岡市在住。2016年第4回国際石彫シンポジウム参加。 ③-4 増子博子：宮城県大崎市生まれ、岩手県内に在住し制作活動を行っていたこともあるが、現在は栃木県下野市在住。 	<ul style="list-style-type: none"> ■青森県出身。 ■京都府の嵯峨美術短期大学卒業後、岩手県盛岡市在住で、制作活動中
取得理由	<ul style="list-style-type: none"> ■令和3年度企画展「菅木志雄展」を開催。既収蔵作家 ■岩手県出身作家。今後も当館の所蔵美術品コレクションに追加し、広く県民に公開して理解醸成を図るとともに観覧していただくことが適當 	<ul style="list-style-type: none"> ■平成15年度企画展「舟越桂展」を開催。既収蔵作家 ■岩手県出身作家。今後も当館の所蔵美術品コレクションに追加し、広く県民に公開して理解醸成を図るとともに観覧していただくことが適當 	<ul style="list-style-type: none"> ■令和4年度企画展「IMAをうつす7人」を開催。泉田・宇田は既収蔵作家 ■今後も当館の所蔵美術品コレクションに追加し、広く県民に公開して理解醸成を図るとともに観覧していただくことが適當 	<ul style="list-style-type: none"> ■令和4年度第4期コレクション展特集展示開催。既収蔵作家) ■岩手県在住作家。今後当館の所蔵美術品コレクションに追加し、広く県民に公開し観覧していただくことが適當
取得の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■岩手県出身で、他の芸術作家にも多大な影響を与え、世界的評価を受けている作家 ■戦後日本における重要な美術動向の一つである“もの派”的代表作家 ■岩手県立美術館で一定数の作品をまとめて収蔵・展示し、岩手県民の財産として周知する必要がある ■館内及び屋外展示場での展示が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ■岩手県出身で、他の芸術作家にも多大な影響を与え、世界的評価を受けている作家 ■独特の雰囲気を持つ人物像で知られ、作品及び作家本人の人気が高く、本館への問い合わせも多い作家 ■岩手県立美術館で一定数の作品・資料をまとめて収蔵・展示し、岩手県民の財産として周知する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ■「IMAをうつす7人」展は、岩手ゆかりの現代美術家たちが、震災からの10年間で大きく変化した世界をどのように捉えてきたか作品によってたどる企画展であったことから、岩手の今を表した作品として取得し、「変化の時代」における美術のもつ新たな可能性を示すものとして、岩手県民に紹介していく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ■既収蔵作家であるが、さらにコレクションの充実を図り、岩手県民の財産として周知する必要がある
取得希望作品（例）	 <p>景位 (けいい) : 2021年</p>	 <p>砂の街のスフィンクス (すのまちのスフィンクス) : 2008年</p>	 <p>異果て (いはて) : 2018年</p>	 <p>遠いゆくえ (とおいゆくえ) : 2005年</p>